

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成も可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：茨城県銚田市立旭北小学校

活動名：豊かな学びを目指して
 ～社会で生きる力を育てる教育活動～

解決すべき課題：本校は、全児童 74 名の小規模校である。そのため、一人一人に手厚い教師の支援が可能となる一方、受け身の児童が多く、主体的に考え行動する児童やリーダーシップを発揮することのできる児童が育ちにくい。また、6年間変化の少ない人間関係のため、自己有用感を高めにくく、多様な考えを交流することができない等の課題があげられる。そこで、小規模校のまとまりのよさや迅速な行動力を生かして、学び方の改善や異学年交流の充実、地域社会とのつながりを深める体験活動を発達段階や地域資源とのつながりを重視しながらカリキュラムに取り入れ、社会性の育成を目指した。

目標・方針：本校の教育目標「豊かに学び、未来を拓く児童の育成」

(1) クラス内での交流や異学年での交流を学校教育の様々な場面に取り入れ、児童の主体的な取組や多様な考えを生かすことで、自己有用感を高め、コミュニケーション能力や社会性を育成する。
 (2) 地域の人材・資源を活用した体験的な学習を取り入れることで、地域社会に対する関心を高め、児童の主体性や社会性を高める。

活動内容：

(1) 授業改善のための校内研修の取組と異学年交流
 ①順序立てて説明できる児童(論理的思考力)の育成(算数科を中心に)(資料1)(写真2)
 ②「考え、議論する道徳」への質的転換を図り、豊かな心と将来への夢を育む教育を推進する(資料1)
 ③異学年集団での活動の充実(人権教育、体力作り、特別活動等)(写真3)

(2) 地域の人材を生かした、総合的な学習の時間(環境教育)の学習プログラム作成(資料3)

活動の成果：

(1) 指導計画や授業改善の手立て、発達段階に応じた交流方法等を共同立案、相互授業参観などを通じて、低学年と高学年ブロックでそれぞれ検証し、全体で共有しながら取り組んだ。その結果、「自分の考えをわかりやすく説明できる」と答える児童が A 評価 58%→67.5% B 評価を合わせると 93%(4段階評価)「道徳の授業で自分の考えをもつことができる」と考える児童が A 評価 69%、B 評価を合わせると 96% となった。また、自己有用感につながるアンケート項目では 95%以上の児童が肯定的に捉えていた。

(2) これまでも、総合的な学習の時間のテーマを「環境」に設定し、地域とのつながりや地域の教育資源(大谷川、涸沼など)を活用し、3年生から6年生までの4年間の学習活動を体系的にまとめ、学校全体で共有しながら取り組んだ。(資料2)また、環境教育だけでなく保健安全教育等、専門的な知識を有する地域の方々を GT として招き学習を進めた。学習活動では、児童の主体的な言動が多く見られた。

アピールポイント(アイデアや工夫)：

- ・研修では、チームでの取組を重視し、学習計画の立案などスムーズに活動が進んだ。(写真1)
- ・市バスなどを利用して、積極的に校外の川や湖沼、施設などに出向き、現地調査などを進めた。
- ・環境教育学習プログラムと学習内容のつながりを図にまとめ、効果的な学習となるようにした。(資料2)。

＜写真、図表添付欄＞

写真1 校内研修

資料1 授業の工夫

写真2 授業の様子

資料2 環境学習のつながり

写真4 環境学習の様子

写真3 異学年交流

資料3 環境学習の取組